

基本方針1

■ライフステージ等に応じた切れ目のない歯と口腔の健康づくりの推進

■第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の指標

第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画では、以下のように目標値を設定し、取り組めます。

■目標達成に向けて、行政や様々な関係者が協働して取り組むこと



**各対象者共通** 生涯にわたり、歯とお口の健康を保つことは、食事を楽しむだけでなく、生活習慣病予防などにもつながります。

**乳幼児期** むし歯の予防、歯みがきの動機付け、正しい食習慣の定着などが歯とお口の健全な成長発育にとって大切な時期です。

**学齢期** 乳歯から永久歯へのはえかわりの時期で、歯みがきが難しく、むし歯や歯肉炎が発生しやすい時期です。

**成人期** むし歯に加えて、歯の喪失や全身の健康に影響する歯周病の発生のリスクが増大する時期です。

**高齢期** 歯の喪失が急増し、嚥んだり飲み込んだりする機能が低下し、入れ歯を使う人が増加する時期です。

**定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な人** 嚥んだり飲み込んだりする機能の低下がみられ、お口が不衛生になりやすいため、むし歯や歯周病が重症化する傾向にあります。  
〔障がい者(児)、介護が必要な高齢者〕

目 標	現状値(本計画策定時点)	目標値(平成33年度)
8020 運動の意味を知っている人の割合(20歳以上)	62.8%	70%以上
噛ミング30の意味を知っている人の割合(20歳以上)	39.3%	50%以上
歯科疾患とその他の疾患(糖尿病、肺炎、心臓病等)が関連のあることを知っている人の割合(20歳以上)	49.5%	70%以上
過去1年間に歯科検診を受診した人の割合(20歳以上)	45.5%	65%以上
3歳児でむし歯のない児の割合	79.7%	90%以上
毎日仕上げみがきをする習慣のある保護者の割合	1歳6か月児 71.5% 3歳児 81.5%	75%以上 85%以上
12歳児の1人平均むし歯数(永久歯)	男子 0.78本 女子 0.93本	0.6本以下 0.8本以下
12歳児でむし歯のない児の割合	65.6%	70%以上
フッ化物洗口を実施している児童・生徒の割合	小学生 35.9% 中学生 8.4%	40%以上 20%以上
40歳で喪失歯のない人の割合	64.4%(35~44歳)	75%以上
未処置歯を有する人の割合	40歳代 46.4% 60歳代 41.1%	35%以下 30%以下
進行した歯周炎を有する人の割合	40歳代 27.4% 60歳代 50.0%	22%以下 45%以下
歯間部清掃用器具を週2日以上使用している人の割合	40歳代 15.0% 60歳代 27.4%	20%以上 30%以上
60歳で24本以上の自分の歯を有する人の割合	69.6%(55~64歳)	75%以上
60歳代における咀嚼良好者の割合	67.9%	80%以上
80歳で20本以上の自分の歯を有する人の割合	47.9%(75~84歳)	50%以上
口腔ケアに関連する介護報酬加算の適用を受けている介護保険施設数	187施設/240施設	全施設

治療が困難な人に対しては特性に応じた歯科保健指導及び歯科医療の提供が必要です。



- 8020運動、噛ミング30(かみんぐさんまる)の推進
- 歯科疾患とその他の疾患との関連の情報提供
- かかりつけ歯科医をもつなど、定期的な歯科検診の受診の啓発
- 仕上げみがきの必要性の普及啓発
- 噛むことや甘味の適正摂取など食育の推進
- フッ化物塗布等の効果的なむし歯予防の推進
- 歯ブラシやデンタルフロスなど効果的な口腔清掃方法の普及
- 小中学校におけるフッ化物洗口の実施体制の支援
- 職場における定期的な歯科検診や食後の歯みがき、歯科治療の推奨
- むし歯や歯周病予防に有効な歯間部清掃用器具の普及
- 口腔清掃、入れ歯の手入れなどの普及啓発
- 誤嚥性肺炎や窒息予防のための口腔機能の維持向上の普及啓発
- 個々の状況に応じた口腔ケアの推進
- 専門的口腔ケアの実施及び訪問歯科診療などの受診機会の確保

**8020 運動**  
(はちまる 20いまる運動)

「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動で、生涯にわたり自分の歯でものを噛むことを意味します。

**小学校でのフッ化物洗口**

**歯間部清掃用器具**

歯と歯の間の歯垢をとる道具で、デンタルフロスや歯間ブラシがあります。

**歯周病と関係する病気**

特に糖尿病と歯周病は密接に関係しています。また、喫煙は歯肉に悪影響を与えるなど歯周病の要因になります。

基本方針2

■歯と口腔の健康づくり推進のための基盤整備・連携推進

**歯科口腔保健に携わる人材の確保及び資質の向上** 関係者を対象に専門的な研修会を開催するなど、資質の向上を目指します。

**関係機関の連携の推進及び情報の共有と活用** 様々な分野の関係者が、歯科口腔保健に関する情報を適切に共有し、連携、協力する体制の整備を目指します。

**災害時における歯科口腔保健対策** 平常時から歯と口腔の健康に関する普及啓発や関係者間の支援体制の整備を目指します。

目 標	現状値(本計画策定時点)	目標値(平成33年度)
行政機関(市町)における歯科専門職の配置	4市/20市町	20市町/20市町
成人を対象とした歯科検診を実施している市町数	16市町/20市町	20市町/20市町
歯科検診を実施している事業所の割合	9.6% (73事業所/763事業所)	15%以上

災害時にも歯みがきを忘れないでね!



- 行政機関等における歯科医師や歯科衛生士等の配置促進
- 歯科口腔保健に携わる保健、医療、福祉及び教育等に携わる関係者に対する研修の実施
- ライフステージ等に応じた切れ目のない取組のための関係団体・機関との連携
- 歯科口腔保健に関する情報収集、調査研究の推進及び的確な情報の提供
- 関係団体・機関と連携した災害時支援体制の整備
- 避難所等における口腔ケアの支援に対応できる人材の確保及び資質の向上
- 平常時からの口腔ケアの重要性に関する普及啓発